

第13回

伊賀市非核平和推進

中学生広島派遣団レポート



市内の各中学校の代表として、生徒10人を8月5日から2日間、広島市へ派遣しました。

参加した生徒は、それぞれの学校の生徒一人ひとりが平和への祈りを込めて折った折り鶴を原爆の子の像へ捧げました。また、平和記念式典への参加や平和記念資料館の見学、被爆体験講話の聞き取りなどを通じて、72年前に起きた人類史上最初の原子爆弾による悲惨な現実を、見て、聞いて、肌で感じて、非核平和への思いを新たにしました。

その思いを生徒のレポートからお伝えします。

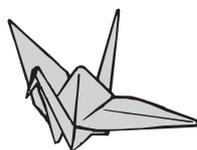
《行程表》

1日目

- 被爆体験講話聞き取り
- 爆心地・原爆ドーム見学
- 折り鶴献納
- 広島平和記念資料館見学

2日目

- 平和記念式典参列
- 放射線影響研究所見学



被爆体験講話

10歳のとき、爆心地から約1km離れた自宅で被爆した、寺本貴司さんからお話を伺いました。

◆崇広中学校 西出 智紀

僕が寺本さんの話を聞いて心に残っていることは、1人の命を奪うことは100人の命を奪うことと変わらないということです。これを聞いて、改めて一人ひとりの命の大切さを感じることができました。



▶「寺本さんは自分のせいでお母さんが死んでしまったと話していて、原爆に対して怒りもあるけれど、それ以外にも思うことがあると知った。」
(生徒談)

◆緑ヶ丘中学校 船見 和希

被爆体験講話で、寺本さんに出会いました。寺本さんは、おばさんに助けられて今を生きています。寺本さんはこう言います。「人から与えてもらった命」だと。周りの人と助け合うことが、世界平和へとつながると強く思いました。



◀被爆体験講話に聞き入る生徒たち



原爆ドーム

原爆の惨禍を伝え、核廃絶と人類の平和を求める誓いのシンボルである原爆ドームの見学を行いました。

◆柘植中学校 大橋 七星

原爆ドームを実際に見て、迫力がすごかったです。壁が崩れて、がれきが落ちていたり、鉄の柱がねじれてむき出しになっていたりして爆発の威力の強さが伝わりました。それを知ることができたので学校で伝えたいです。

原爆の子の像

市内の中学生一人ひとりが折った折り鶴を捧げました。

◆青山中学校 古市 瑞稀

2歳で被爆し、その9年後に白血病になり、入院して8カ月後に亡くなった佐々木禎子さん。原爆の子の像には、禎子さんが病気が治ると信じて折っていた鶴を自分たちも引き継いでいこうという思いが込められています。

そこには世界中の人たちが来ていて、世界中で平和が祈られていることを感じました。

◀平和を願って折り鶴を捧げる生徒





核兵器を持っている国が核兵器をなくす運動に参加していないことを知り、その国も参加して、核兵器がなくなつてほしいと思った。(生徒談)

広島平和記念資料館

原爆による惨状を示す写真や資料などの見学を行いました。

◆阿山中学校 菅野 実袖

資料館を見学して、写真や展示物から当時の広島状況や被爆者の方々がどういふ思いで過ごしていたのかを考えることができました。また、外国からの援助があったことも知って、国内だけでなく世界中で注目されていたことを知ることができました。

◆上野南中学校 山形 航平

平和記念資料館で感じたことは、放射線を浴びることでおなかの中の胎児にも影響を与える「胎内被爆」がとても恐ろしいということです。核兵器が無ければこんなことは起こらないので、その恐ろしさについて考えていきたいです。



▶ホテルで生徒たちは、この日感じたことを話し合いました。「話し合いでは、ほかの生徒も戦争はしてはいけない、平和にしよう」と思っていることが伝わった。」(生徒談)

平和記念式典

広島市原爆死没者慰霊式並びに
平和祈念式に参列しました。

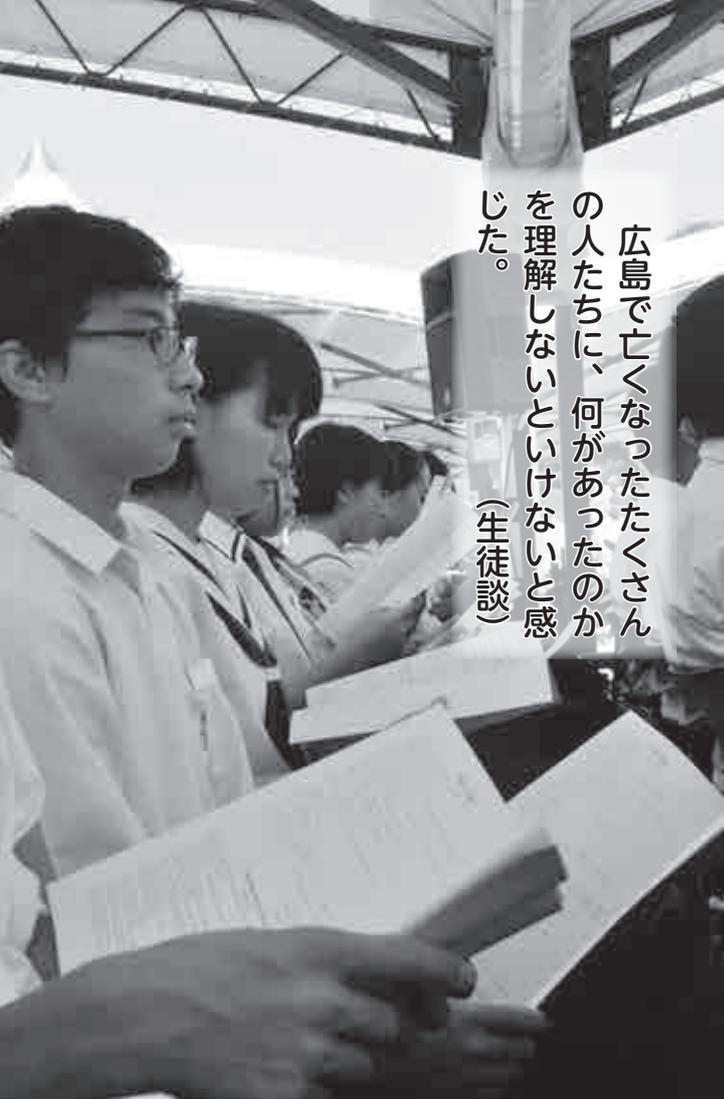
◆霊峰中学校 松村 朱莉

式典当日だけでなく、前日から多くの人が集まり、その中には海外の人も多く見えました。この式典が世界中から注目され、多くの方々が平和を願っているのだと感じました。自分もこれからの世界を創るひとりとして、平和を願おうと改めて思いました。

◆城東中学校 森福 葉芽

僕が平和記念式典で感じたことは、周りの人を大切にすること、平和に向けて歩み出せるということです。

だから僕は、これからも家族や友達を大切にしていこうと思いました。



広島で亡くなったたくさんの人たちに、何があったのかを理解しないといけないと感じた。
(生徒談)

放射線影響研究所

放射線影響研究所で放射線について学びました。

▶「放射線や被爆について学び、放射線の影響を正しく理解することが大切だと思った。」(生徒談)



◆島ヶ原中学校 山出 芽依

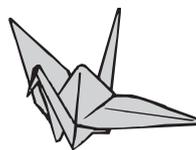
放射線影響研究所に行つて、私が知らなかったことを分かりやすく教えていただいたので良かったです。

この研究所がたくさんの人の役に立っていると聞いてすごいなと思いました。

◆大山田中学校 田矢 朋歌

私は放射線影響研究所で学んだことが印象に残りました。

今でも原爆の放射線の影響が残っている人たちがいて、その人たちのためにずっと研究を続けていることを知り、私たちにもできることがあれば積極的に協力したいと思いました。



▼2日間の派遣を終え、平和への思いを新たに
にした生徒たち



【問い合わせ】

人権政策・男女共同参画課
☎ 47・12886 FAX 47・12888